

第3学年 国語科学習指導案

学 級 3年A組（男16名、女9名、計25名）

指導者 教諭 岡本 信

1 単元名 4 状況の中で「故郷」

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、中学校国語科における文学的文章のまとめとなる教材である。中心となる指導事項は、「読むこと」の領域の「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」である。これまで学んだ、文章の内容を理解することや作品の主題を考えることから、さらに発展し、作者の訴えに対する自分の考えを根拠に基づいて形成することが求められる。

この作品の舞台は、二十世紀前半の中国である。国や時代といった背景が子どもたちとかけ離れているが、自分と異なる状況や人物像を読み、そこから学びを得ることこそ読書の醍醐味でもある。そのことを念頭に、自分の状況との違い、また、登場人物たちが状況の変化によって見せる現在と過去の違いを中心として読みを深めさせたい。

人間が自分を取り巻く状況によって、どのように変化するのか、特に人生において辛い状況になった時、今まさに義務教育を終え、自らの選択の連続によって生きていこうとする自分がどのような生き方をしたいのかを考えることのできる教材である。

(2) 生徒観

授業での発言や取り組む姿勢など、大変積極的な集団である。グループでの活動でも人や性別を選ぶことなく協力して取り組んでいる。しかし、個人の考えを求められることや単独での学習に対して不安を感じている生徒も多く、悪くいえば集団に埋没することを好み、自己肯定感が低いといえる生徒が多い。

これまで生徒は、二つの教材を通して文学的文章の学習を行った。「握手」では、登場人物の言動や心情を表す表現に注意して読み取り、登場人物の生き方を知り、それに対する自分の考えをまとめることを学習した。次に「高瀬舟」では、作品のテーマである人間の欲望、生と死について、自分ならどう考えるのかということを軸に読み取る学習をした。どちらの作品の登場人物も、際立った特徴や魅力を持っており、いわば現実には多く出会うことのないドラマチックな人物像であった。自分の考えや生き方についての契機となる教材ではあるが、極端な内容であるがゆえに現実味に乏しい学びであった。

今回学習する教材における登場人物は、実際の人間社会に存在しがちなタイプの人物が象徴的に描かれ、自分たちを取り巻く状況に、挫折したり投げやりになったりと、現実社会の有り様をそのまま投影したようなリアリティを持っている。そこで、本単元を通して、これまで学習してきたことを活用しながら、作品を通して自分の生き方や社会の在り方を真剣に考えさせたい。

(3) 指導観

単元を貫く言語活動として「故郷新聞を作る」ことを位置づけ、課題解決的に文章を読み進め、そこから読み取った内容を記事として作成し1時間ごとのまとめとする。

新聞を作るためには、まず作品の内容や主題を理解し、次に、それらに対する考えを根拠に基づいて表現する必要がある。そのために、はじめに場面を時系列でとらえ物語の流れをつかませる。次に、登場人物個々の現在と過去の対比と登場人物同士の比較を行う。これらのことから、作者が登場人物に求めた人物像の変化や社会の状況といった内容に気づかせたい。

これらの特徴をとらえさせ、作品に対する自分の意見を考えさせたい。そして、人間や自分たちが生きる社会という状況における、不条理や醜さ、弱さを知った上で、それらを解決したり打開したりする方法や考え方を根拠に基づいて、提言する新聞として作成できるように指導したい。

(4) 自己肯定感を持たせるための交流タイムの位置づけ

本時における交流学习は、作成した記事を読み合い意見交流する活動を設定している。意見の交流をすることで、他者との共通点や相違点を確認し、その比較によって理解の深化と拡大を図り、その過程で自分の考えの妥当性を確認したり、助けを借りながら考えをまとめたりする経験から自己肯定感を高めることがねらいである。

3 単元の目標

- (1) 作品の背景や登場人物のかかわりをとらえ、自分の意見をもととする。 【国語への関心意欲態度】
- (2) 場面の展開や登場人物の設定の仕方から内容をとらえることができる。 【読むこと(イ)】
- (3) 社会状況によって変化する人物像について自分の考えをもつことができる。 【読むこと(エ)】
- (4) 効果的な表現、語句などに着目し、それらの言葉を用いて考えを説明することができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)】

4 指導計画

学習活動(全6時間)	【交流方法及び評価方法等】
(1) 新聞づくりの見通しと作品の通読	◎発言と振り返りの記入内容
(2) 場面分けと内容の整理	場面分けと役割の検討。(班) ◎ノートの記入内容
(3) 登場人物の人物像と相関関係の把握	◎人物相関図の内容
(4) 新聞記事の選定	(班) 話し合いを参考にして、記事内容を選定する。◎選定記事と構成メモの内容
(5) 新聞記事の作成	(班) 班で検討し、記事を推敲する。◎推敲した記事の内容
(6) 新聞記事の交流(本時)	(班→全体) 記事と意見の交流。◎記事と発表の内容

5 本時の学習

(1) 目標と交流

【目標】	【交流の方法等】
新聞記事の作成と交流によって、作品に対して自分の意見をまとめることができる。	(班→全体) 新聞記事の交流。自分の考えと参考になった仲間の記事の紹介。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価規準
導入 5	1. 学習課題の把握 (5分) 課題を確認し、見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れ ①「班で10分」意見交流 ②「全体で10分」意見交流での学びを発表 ③「一人で10分」記事の見直し ④「一人5分→全体で5分」学習の振り返り
	課題 記事の交流を通して、自分の意見をまとめる	
展開 35	2. 交流① (10分) 記事を読み合い、意見交流する。[伝え、理解し合う交流]	<ul style="list-style-type: none"> ・班長が司会を務める。 ・参考になった記事や考えをメモしておくように指示し、交流②に生かす。
	3. 交流② (10分) 記事と意見交流から考えたことを発表し、全体交流を行う。[高め合う交流]	◎記事と発表の内容
	4. 記事の見直し (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠にもとづいて発表する。 ・交流①で参考になった記事や意見を紹介させる。 ・交流での学びを参考にして、自分の新聞を手直しする。
終末 10	5. 本時の振り返り (10分) (1) 学習した内容と学びを記入する。 (2) 指名された生徒は記入内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動とそれを通して分かったことを書かせる。 ・本時で理解すべきことを伝え、挙手によって確認する。

(3) 本時の評価規準

観 点	評 価 規 準	見取りの方法
読む能力	交流を通して自分の意見をまとめている。	記事と発表の内容